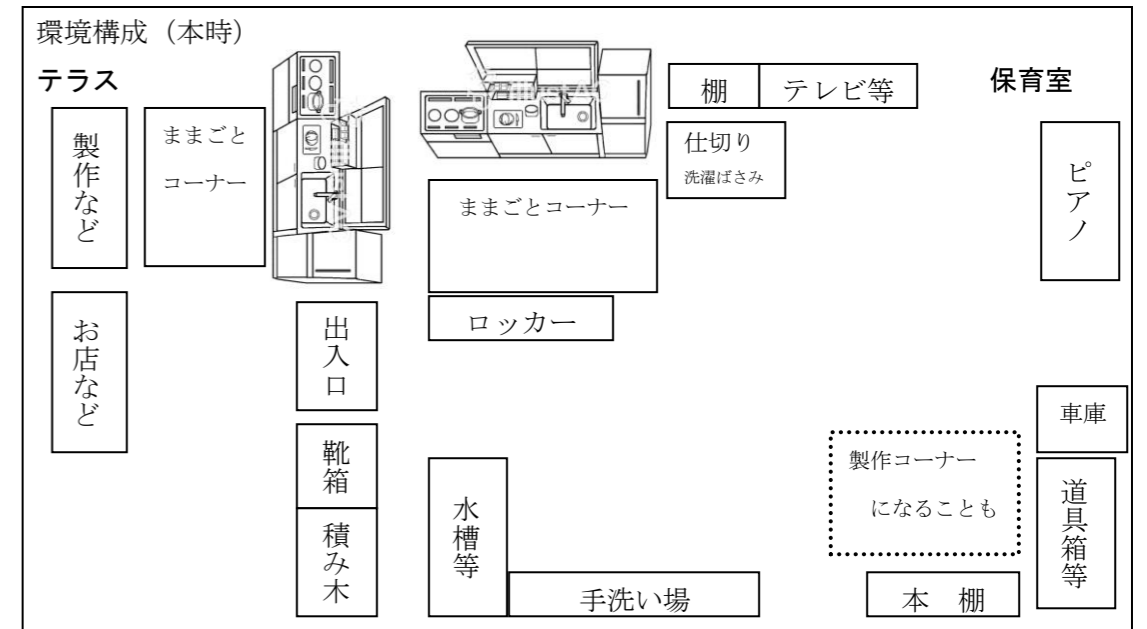


「作ったもので遊ぼう」指導計画案

題材名	作ったもので遊ぼう		対象年齢	3歳児前半
遊びのプロセスの種類	遊びの創出 はな組の園児は乗り物やピクニック遊びが大好きで、大型積木や段ボールなどで乗り物を作って出かけたり、玩具を組み合わせたお弁当を持ち込んだりして、思い思いにごっこ遊びを楽しむ。			
時期	7月下旬			
ねらい	領域 (環境) 遊具や玩具などの環境に積極的に関わり、それを組み合わせ工夫して作ったもので遊ぶことの楽しさに気付く。 (表現) 気付いたことや感動したことを伝えようとしたり、自由に表現したり、演じたりすることを楽しむ。 (人間関係) 「一緒に遊ぼう」「バーベキューしよう」などの言葉で教師や友達を遊びに誘ったり、自分なりの表現で周囲の人と関わったりしながら遊ぶ。			
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	(自立心) 遊びに使いたいものを自分で準備したり、教師や友達に援助してもらいながら必要な物を作ったりすることで、主体性をもって遊ぶようになる。 (表現・感性) 感性や体全体を存分に使い、バーベキューごっこやお店ごっこ、乗り物・食べ物作りなど自分がやりたいことを表現して思い切り楽しむ。 (言葉による伝え合い) 自分の思い、経験したことを友達や教師に言葉などで伝えようとする。			
環境構成	場所・材料・用具名		配慮する視点	
材料	子ども	お弁当箱、コップ、トング等	使いたい材料や道具が重なる場合は、教師が対話を促す。	
用具	教師	遊具、製作道具類、御座、段ボール等	すぐに遊び始められるように道具や玩具の置き場所を明確にしておく。	
場所	はな組テラス (保育室)			
遊びのプロセス	主体的で対話的な深い学び (アクティブラーニング) の視点			
	子どもの活動 (□)	教師の援助 (●) と 予想される遊びの姿 (○・育ってほしい姿)	主になるごっこ遊びの オモシロサの5要素	
【はじまり】 (遊びの創出)	□「今日は～をして遊びたいな」「昨日の続きをやりたい」などロクに話し始める。 □思い思いの場所に必要な物を運ぶ。	●作った物で何をして遊びたいか、順番に聞いて思いを受け止め、援助が必要な活動や場所を確認する。 ○前日の遊びを思い出して何をしたいか言葉で伝えようとする。 (言葉・自立) ○使いたい物を使いたい場所に運び、持ち物を準備したり乗り物を持ってきたりする。 (自立)	(想定)	(記録)
【展開】 (遊びへの没頭)	□お店屋さんになって呼び込みをしたり、物を渡したりする。(ジュース、アイス、かき氷等) □乗り物に乗って色々なところを走ったり、友達と連結したりする。 □お弁当を作ったり、作った物を持ってピクニックに行ったりする。 □バーベキューをして、焼いた物を配る等。	○お弁当や好きな物をそれぞれに持って、乗り物に乗ったり、お店を開いたりして、会話をしながらやり取りを楽しむ。 (表現・感性) ●友達の物を何も言わずに持って行くなどの様子が見られる時は、側に行き援助する。 ●いざこざがあった時は、何が合ったのか見守ったりどうすれば楽しく遊ぶことができるかの声かけをしたり自分達なりの解決策に至るのを見守る。		
【まとめと発展】 (遊びの振り返り)	□帰る時間が近づいていることを知り、それぞれの玩具や遊具を所定の場所に戻す。 □降園準備後、次に幼稚園に来るときにどんな遊びをしたいかを伝えようとする。	●降園時間が近づいていることを知らせ、気持ちが切り替えられないでいる子には、その側に行き思いを受け止めたり、次の活動を知らせたりする。 ○次回したい遊びを言葉で伝えようとする。 (言葉)		
評価	領域	(環境) 遊具や玩具などの環境に積極的に関わり、それを使って遊ぶことの楽しさに気付いている。 (人間関係) 「一緒に遊ぼう」「バーベキューしよう」などの言葉で教師や友達を遊びに誘ったり、自分なりの表現で周囲の人と関わったりしながら遊んでいる。 (表現) 気付いたことや感動したことを伝えようとしたり、自由に書いたり演じたりすることを楽しんでいる。		
	幼児期の終わりまでに育てたい姿	(自立心) 遊びに使いたいものを自分で準備したり、教師や友達に援助してもらいながら必要な物を作ったりすることで、主体性をもって行動している。 (表現・感性) 感性や体全体を存分に使い、バーベキューごっこやお店ごっこ、乗り物・食べ物作りなど自分がやりたいことを表現して思い切り楽しんでいる。 (言葉による伝え合い) 自分の思い、経験したことを友達や教師に言葉などで伝えようとしている。		



〈メモ〉・気づき (●教師 ○子ども) ■手だてと工夫 △改善点 (振り返り)



○トングを使うと肉や野菜が取りやすい。ひっくり返すのが面白い。
○友達を誘って新幹線を連結させると、一緒にお出かけができて楽しい。



○何を売っているか、声を出して呼びかけるとお客さんが来てくれることがある。
●お店屋さんごっこがしたい子はお客さんとのやりとりをしてみたいと感じている。
■お店とわかるような仕切りを用意することで園児同士のやりとりも盛んになってきている。
■物の置き場所を園児と一緒に確認することで教師を頼らずに自分たちで遊びを始めるようになってきている。

